

のと復興支援インターン＜令和7年春＞

— 自然豊かな奥能登のキャンプ場でワーキングホリデーしませんか？ —

令和6年に能登半島で発生した地震と豪雨は、甚大な被害をもたらしました。日常生活が出来る程度には社会インフラが復旧しましたが、復興を担う人手が不足しています。一方、南海トラフ地震をはじめ、国内では今後も各所で災害が発生すると想定されますが、災害への対策や対応には、災害やその対応を経験しておくことが必要不可欠です。また、日本大学は石川県と包括連携協定を締結しており、その精神を個々の教職員や学生レベルでも活かす時だと思えます。こうした現状をふまえ、能登半島地震の震央である珠洲市のキャンプ場をお借りして、日本大学の教職員学生有志でインターンを行うことにいたしました。興味のある方は是非、お問合せください。**他学部他学科大歓迎**です。皆さまのご参加をお待ちしております！

宿泊場所：木ノ浦野営場のテント

木ノ浦野営場 ⇒ 〒927-1446 石川県珠洲市折戸町ニ75

木ノ浦ビレッジ、奥能登ブリッジ、もとやベースなど、状況や希望により他の場所を使う可能性があります。



(令和6年5月撮影)

施設設備：炊事場、常設トイレ、温水シャワーなど。電気水道完備で、インターネット接続環境も用意します。奥能登を満喫できる、絶好のロケーションです。

期 間：令和7年4月29日(火)から5月6日(火)(期間は任意で一泊二日など短期も歓迎, 1日最大7名まで)
理工学部は、休日授業実施日(4月29日/5月5日・6日)と休校日(4月30日/5月1日・2日)に注意。

参加費用：食事代は一食500円から1000円(地元のお店で食事もしくは食材を調達して自炊します)を予定しています。交通費は自己負担(羽田空港と能登空港の間は片道9400円からで毎日往復2便運航中、能登空港と野営場の間はレンタカー等で無料送迎可)ですが、宿泊代の自己負担はありません。

持 ち 物：寝袋(任意)、汚れても良い服、厚底の靴、タオル、食器、常備薬、健康な体、など。

やること：住民の方々との交流やお手伝い、テントの設営や撤収、焚き木を使った調理、キャンプ場の清掃、海岸清掃、被災地の視察など。

傷病対応：本インターンは課外活動のため、民間保険未加入の場合は任意保険(国内旅行傷害保険なら1滞在269円から)への加入をお勧めします。理工学部など、学生教育研究災害傷害保険(略称「学研災」)に加入している学部もあります。救急セットは常備します。

<https://www.nihon-u.ac.jp/cso/service/insurance/online/>

運営方法：事前準備や打合せを含め、GoogleWorkspaceやSlackおよびZoomなどのツールを活用し、オンラインと対面を併用しながら行います。参加申込は随時受け付けますが、日程は先着順のため**お申込みはお早めに！**



(食事イメージ)

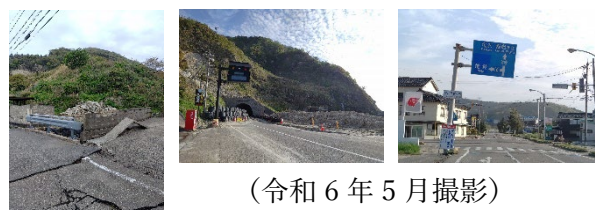
アルバイトではないので報酬はありませんが、社会福祉協議会のボランティアではないため、公式ボランティア枠外の活動が出来ますし、調査研究も可能です。自由時間は散策やお買い物も可能で、遊んでも構いません。最寄りの商業地まで車で30分ほどかかりますが、生活に必要な日用品や資材は大抵入手できます。本企画の運営にご協力いただける教職員も絶賛募集中です！

お問合せ・お申込み：<https://notostay.com/nu/>

主 催：日本大学理工学部応用情報工学科

後 援：石川県・一般社団法人能登乃國百年之計

担当者：五味悠一郎(船橋校舎223研究室)



(令和6年5月撮影)

日本大学理工学部応用情報工学科准教授・日本大学災害研究ソサイエティメンバー

防災士・救急法救急員・元ボーイスカウト・食生活アドバイザー3級・国内A級ライセンス・博士(医学)

※ 本企画の内容は変更や中止となる可能性がありますので予めご了承ください ※